

林業技術センター
普及班便り
(第13回)

あなたの山づくりを応援する林業普及

いわての林業経営者【その4】

◆私には原木しいたけ栽培の『夢』がある…

一 はじめに

今回は、原木生しいたけ栽培に取り組む八幡平市の高橋和幸さん（33歳）をご紹介します。

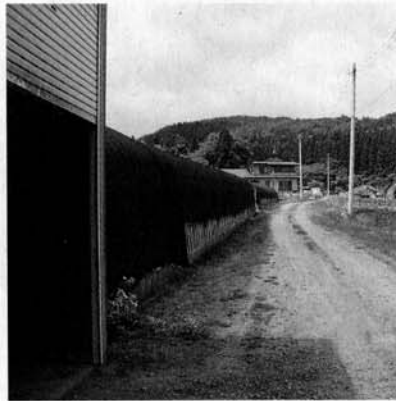
二 その人紹介

高橋さんは、農家の長男として旧松尾村に生まれました。父親が病気で入院を繰返していた10年程前、いずれは家業を継ぐとの思いから、継ぐなら早い方がいいと大学を中退し、両親が行っていた、「原木しいたけ栽培」の世界に迷うことなく飛び込んだということです。



高橋和幸さん

元々会社勤めには魅力を感じていなかった高橋さん、今の家業が一番自分に合っていると生き生きと話す姿は、晴れ晴れとした青空を思わせる清々しさでした。



高橋さんの経営するハウス

三 経営内容

(1) しいたけ栽培を一手に担う

父親は、高橋さんが実家に帰ってからは、しいたけ栽培の全てを任せ、農作業一本に専念しています。後継者ができ、ご両親はさぞかし頼もしく思われているものと察します。

今年では、年間の植栽本数7,000本を母親の手助けを受けながら意欲

的に取り組んでいます。

(2) 安定経営は『通年栽培』から

農林業経営の中で、冬場の労働稼働日数をどう確保するかが、大きな鍵を握っています。高橋さんはその問題を解決するため、経営の安定を図る栽培形態を模索しました。「夏出し冬休業」では、収入が不安定になるばかりか、労働配分的にも無駄が出ます。そこで、夏冬関係なく一年を通した『通年栽培』に取り組みました。その結果、収入が安定し、原木購入や設備投資に係る融資の際に有利になっているということです。

(3) 出荷は共同で

父親が経営を始めた昭和61年当初から、岩手町の生産者と共同で出荷を始め、出荷量の安定供給確保に努めてきました。市場側も定量集荷・定量販売が何よりも求められることから、親子で20年以上その要求に応じて来た実績も評価されています。

四 新たな挑戦

(1) 仲間づくりの中で

高橋さんは、しいたけ栽培を始め当初から、若手しいたけ栽培者の育成を目的とした「マッシュユエキスパートクラブ」に参加しています。

クラブとして、食と観光フェスタなどに出席し、「原木しいたけ」の良

さなどを積極的にアピールしてきました。その活動が実り、4年前から大手スーパーの東京店舗において、売り場の一角に高橋さんの名前と顔写真入りでしいたけが販売されることとなりました。



栽培するきのご発生ハウス内

(2) 若い生産者が増えることが『夢』

「しいたけ栽培の魅力に是非気づいてもらい、一人でも多くの若い仲間を増やしたい。それが今私の一番願う『夢』です」と言い切る。その思いが通じて、今年度、岩手県から「岩手県林業普及指導協力員」に認定されました。また一歩『夢』の実現に踏み出したと語る高橋さんでした。

林業技術センター 普及班